

# 羽田第1ゾーンスマートシティ実証実験(羽田第1ゾーンスマートシティ推進協議会)

## ■都市課題

テストベッドとしてのスマートシティ形成による「持続可能都市おた」の実現  
生産人口減少、担い手不足に対応した利便性や生産性の確保

## ■解決策

良好な施設環境形成の実現及びまちの魅力向上・検知データの蓄積・分析によるエリマネ施策高度化  
LiDARの検知機能を活用した滞留散会誘導サービスによる公共空間の回遊性の向上・地域活性化

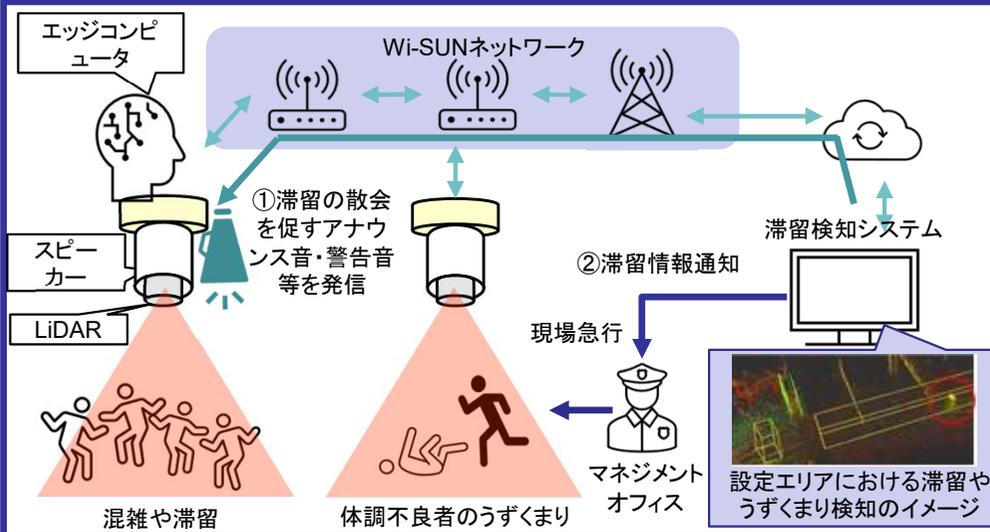
## ■KPI

**中目標**  
HICityから区内観光をした観光客数:  
20万人/年  
**小目標**  
HICity来街者数: 7,000人/

## ■実証実験の概要・目的

本実証実験は、イベント時等において参加者等によって滞留・混雑が局所的に街区内で発生し、他の来街者・オフィス入居者等の通行の妨げとなっている課題に対して、LiDARを用いた滞留検知システムを通じたアナウンス音の発生、施設管理者への通知・現場急行による滞留散会で解決するソリューションの構築及び検証を目的とした。本実証実験では、システムの社会実装性、サービス効果、社会受容性の検証のためにHICity内にて実施したHICity内実証と、システムの他地域への横展開可能性を検証するために大田区内のイベントにて実施した大田区横展開実証を実施した。

## ■実証実験の内容



### (1) HICity内実証

- ✓ 検知エリアに対するLiDARの必要設置個数を検証、社会実装に向けた改善点を把握
- ✓ 滞留検知機能の検証、アナウンスによる滞留散会効果検証
- ✓ 施設管理者、マネジメントオフィス、オフィス入居等を対象にアンケート調査を行いニーズの仮説検証、実装に向けた期待や課題などの把握

### (2) 大田区横展開実証

- ✓ 大田区内でのイベント会場を対象に滞留散会サービス効果を検、システム横展開に際する課題点把握、区民などの一般参加者や大田区の関連部署職員を対象にアンケート調査を行い社会受容性を検証

## ■実証実験で得られた成果・知見

### (1) HICity内実証

#### ポイント①: 滞留検知精度

- ✓ 高い滞留検知精度を確認
- ✓ 検知精度向上に向けて3次元的な検知エリア設定が重要

#### ポイント②: サービス効果向上施策

- ✓ 音の大きさ・質・種類を工夫
- ✓ 視覚情報による注意喚起
- ✓ 機器設置周知による滞留発生抑止
- ✓ 他課題解決を同時に実施

### (2) 大田区横展開実証

#### ポイント①: 他地域へのシステムの実装性

- ✓ 本ソリューションのシステムは大田区内の屋外イベント会場に構築可能

#### ポイント②: 本システムを活用した他ユースケースの需要

- ✓ 行政視点でも住民視点でも本ソリューションの技術の需要は高い

## ■今後の予定

実施項目			2023年度	2024年度	2025年度
マイルストーン			▲ グランドオープン		
スマートツールズ	データを活用したエリマネジメント	データ活用によるエリマネ施策	■ 建物インフラ活用検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ システム・機能の改善点の把握</li> <li>■ LiDAR設置要件とコストの比較検証</li> <li>■ 滞留検知機能検証</li> <li>■ 滞留散会アクション効果検証</li> <li>■ 施設利便性向上効果検証</li> <li>■ 建物管理業務高度化効果検証</li> <li>■ 施設外街区での横展開実証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サービス改善策の効果検証</li> <li>■ 機器設置計画検討</li> <li>■ 実装</li> </ul>

※本事業対応事項 次年度以降対応事項